

皆既日食@望星丸

鈴木 将 (2003神話)

初めての体験となる皆既日食観測は東海大学の所有する船、望星丸に乗り洋上で見ることができた。大学生、中高生を合わせた学生約100人、OB、先生方を合わせて170人ほどの大所帯で静岡は清水から出航。予定のトカラ列島へ向かう航路を外れて流れの速い黒潮を突っ切る船出。新潟・佐渡島間のフェリーしか乗船経験はない私にとって、しんどいながらも貴重な体験となった。同室のOBの方に外国人との正しい握手のやり方を教わったり、休憩時間中の将棋では中学生の女の子に苦戦を強いられたり、これ以上ない騒音をあげる船のエンジンをのぞかせてもらったり。文章を書くことになり、皆既日食を思い出す感覚はなにと似ているか考えてみた。これは酒を少し飲みすぎた次の日、昨晚のことを思い出す感覚に似ている。朝起きてどこで飲んだか、どう帰ってきたか一つ一つ頭から引っ張り出し、そういえばそうだった、と納得する感覚。「皆既中に双眼鏡を貸してくれてありがとね」と言われてそういえば貸したなと思い出し、寒かったね〜と、話をふられて暗く

なってから急に冷えたことを思い出す。皆既になる直前の第2接触は雲に隠れてその瞬間を逃したが、少したって雲から黒い太陽が現れた。自然と歓声があがり自分も声を発していた。空を見上げると真っ黒で水星も見えているが、地平線は360度、明るいみかん色になっている。酒に酔っているときは思考が

鈍り、まわりの事柄を処理できなくなる。皆既日食も普段の生活とは違いすぎて普通の頭で処理しきれない。数ヶ月たってもちゃんと伝えられる気がしないので、この先も同じ感覚で頭に留まるだろう。酒なしで酔える良い体験をした。



(イメージ写真： 東海大学望星丸
<http://www.scc.u-tokai.ac.jp/bosei/bousei/hp/index1.htm> より引用)

